記念講演 要旨

多文化共生社会と日本人・秋田人

～教育の視点から考える～

佐藤 邦明　文部科学省高等教育局参事官（平成2年卒）

ミネソタ州立大秋田校の第一期生として進学、米国留学。英語教育はレベル管理に基づくフェアなシステムで、努力が成果に直結。「行かなくても卒業できる」日本の大学文化との差を実感した。

秋田県庁では国際教養大の設立準備・運営に従事。難産のプロジェクトとして政治問題化・予算否決などの出発点から、中嶋嶺雄初代学長の下で、1年留学義務化・全授業英語化・リベラルアーツを徹底し、日本の高等教育に大きな影響を与えた。

現在3100名超の卒業生が国内外で活躍し、秋田の知的インフラとして人材・ネットワークを構築するまで成長した。また、水野勇気氏のプロスポーツ創業など「価値創造」人材を輩出している。

文部科学省転籍後、高等教育改革を推進。本省勤務に加え、東北大学副学長など大学現場でアカデミアの矜持に触れ、3年間務めたOECD高等教育専門家会合議長を通じて改めて世界との協調の重要性を感じる。現在、参事官として高等教育の国際分野を担当し、外国人受け入れの質向上と社会的適応の両立を重視している。

原点は秋田高校の「自主自立」の校風や自由な学び。米国大本校での学びを通じた衝撃・体感・成長の反復、文化的アイデンティティの問い直しが、後の政策実務と国際的視座獲得の基盤となった。

日本の18歳人口の激減、県内の大学進学者数低下等、秋田も教育を通じて大きな転換点を迎えている。秋田県民歌の精神（人材育成・理想・平和）を行動へ転化し、高度人材育成、全県民へ学び直し機会の提供等「知の総和」を引き上げる取組が求められる。

外国人材の獲得と共生、キャンパスの国際化、国内留学受け入れの推進による、地域と国の双方で即時着手可能なアクションを示し、大学を核とした投資・イノベーションの循環を秋田から仕掛けるグランドデザインを提案した。

本題の多文化共生社会については「日本でも外国人住民が増え、地域社会のあり方が問われている。国籍・文化・価値観の異なる人々を受け入れる柔軟性が必要。地域の歴史や文化を理解し、互いを尊重しながら共に暮らす社会をつくること」を強調。

講演では、長年のキャリアを軸に、教育の視点から、異文化理解の重要性、日米の教育システムの違い、地方創生における大学の役割、日本の研究力・国際競争力の課題、そして秋田の知的インフラとしての大学をはじめとする高等教育機関の意義を総合的に論じた。

プロフィール

さとう くにあき/文部科学省高等教育局参事官。1971年秋田市生まれ　ミネソタ州立大学秋田校一期生・マンケート校卒。東京大学教育学研究科博士前期課程修了。96年秋田県庁入庁。国際教養大の設立準備に携わる。09年文部科学省転籍。高等教育改革を推進。24年より現職。

令和７年度　一般会計　決算報告書

〈収入の部〕　（単位：千円）

項　目	予算額	決算額	増　減
入会金	2,421	2,394	△ 27
会　費	11,000	11,042	42
協賛広告費	440	395	△ 45
会議収入	1,400	1,209	△ 191
雑収入	343	313	△ 30
繰入金	4,300	4,136	△ 164
繰越金	7,396	7,396	0
収入合計	27,300	26,885	△ 415

〈支出の部〕　（単位：千円）

項　目	予算額	決算額	増　減
事業費	12,300	11,110	△ 1,190
だより発行費	2,900	2,913	13
母校協力費	1,250	1,255	5
新入会員歓迎費	950	876	△ 74
年次強化費	100	83	△ 17
ホームページ維持費	780	109	△ 670
管理システム整備費	5,000	4,626	△ 374
資料室運営費	230	196	△ 34
広告費	90	66	△ 24
羽城館維持管理費	1,000	985	△ 15
会議費	3,100	2,938	△ 162
総会費	1,550	1,526	△ 24
運営委員会費	800	616	△ 184
委員会費	450	485	35
支部関係費	300	311	11
事務費	9,320	9,209	△ 111
給料・手当	3,200	3,162	△ 38
消耗品費	240	236	△ 4
印刷費	10	12	2
通信費	4,200	4,125	△ 75
手数料	900	907	7
機器運営費	270	245	△ 25
旅費・交通費	500	521	21
基金	0	0	0
同窓会基金	0	0	0
雑費	80	25	△ 55
慶弔費	50	23	△ 27
雑費	30	2	△ 28
予備費	2,500	0	△ 2,500
予備費	2,500	0	△ 2,500
支出合計	27,300	23,281	△ 4,019

『一般会計 決算・予算』概要説明

①令和７年度決算	
収入	・会費収入は前年比100名増予算額を確保 ・基金会計から400万円を繰り入れ、物価上昇分への対応、母校生徒支援の増額、築30年以上経過した同窓会館の施設整備に充当
支出	・管理システム整備費は、(150周年事業予算を繰越)入札実施、ハードを含め更新 ・羽城館維持管理費は、1階会議室冷暖房設備を更新

令和８年度　一般会計　予算書

〈収入の部〕　（単位：千円）

項　目	予算額	前年度予算額	増　減
入会金	2,421	2,421	0
会　費	11,200	11,000	200
協賛広告費	440	440	0
会議収入	1,400	1,400	0
雑収入	335	343	△ 8
繰入金	4,300	4,300	0
繰越金	3,604	7,396	△ 3,792
収入合計	23,700	27,300	△ 3,600

〈支出の部〕　（単位：千円）

項　目	予算額	前年度予算額	増　減
事業費	8,460	12,300	△ 3,840
だより発行費	3,100	2,900	200
母校協力費	1,300	1,250	50
新入会員歓迎費	1,000	950	50
年次強化費	100	100	0
ホームページ維持費	600	780	△ 180
管理システム整備費	250	5,000	△ 4,750
資料室運営費	220	230	△ 10
広告費	90	90	0
羽城館維持管理費	1,800	1,000	800
会議費	2,950	3,100	△ 150
総会費	1,650	1,550	100
運営委員会費	700	800	△ 100
委員会費	300	450	△ 150
支部関係費	300	300	0
事務費	9,810	9,320	490
給料・手当	3,400	3,200	200
消耗品費	260	240	20
印刷費	10	10	0
通信費	4,400	4,200	200
手数料	910	900	10
機器運営費	280	270	10
旅費・交通費	550	500	50
基金	0	0	0
同窓会基金	0	0	0
雑費	80	80	0
慶弔費	50	50	0
雑費	30	30	0
予備費	2,400	2,500	△ 100
予備費	2,400	2,500	△ 100
支出合計	23,700	27,300	△ 3,600

『一般会計 決算・予算』概要説明

②令和８年度予算	
収入	・会費収入は７年度予算を達成したので、８年度はさらに100名20万円増を目指す。 ・前年同様基金会計から400万円を繰り入れ、物価上昇分への対応、同窓会館の施設整備に充当
支出	・支出の各項目で物価上昇が見込まれるものは５～10%増とする。 ・羽城館維持管理費は、トイレの改修、照明のLED化、玄関雨樋の改修など。